

5. 時代に合った地域をつくる

◆新規 ◇拡充 ◇継続

・金額単位のないものは千円単位
・()内は昨年度当初予算額

秩序ある都市の形成と、生活拠点を中心とした生活圏の形成

【主な総合戦略目標】 日常生活サービスが享受できる拠点及び交通インフラの整備

まちなか居住・都市機能の誘導を推進するための都市再開発等の推進
地域を支える活動者の倍増

公共インフラの整備

紀伊半島一周高速道路の実現に向けた近畿自動車道紀勢線の延伸や京奈和自動車道の県内全線の供用など、幹線道路ネットワークの強化を図るとともに、次世代のインフラネットワークの早期実現をめざした活動を推進する。

① 幹線道路ネットワークの整備

◇ 高速道路ネットワーク

80.2億円【27補正 1.5億円】(137.1億円)〈再掲〉

近畿自動車道紀勢線や京奈和自動車道、県内の直轄国道の改良などに要する直轄事業負担金
〈H28完了予定箇所〉
・京奈和自動車道紀北西道路(岩出根来IC~和歌山JCT(仮称))

◇ 高速道路を補完する幹線ネットワーク道路

179.0億円【27補正 20.0億円】(190.5億円)〈再掲〉

川筋ネットワーク道路やICアクセス道路の整備

◇ 府県間道路 25.8億円(29.1億円)〈再掲〉

大阪府及び近畿圏との交流、連携を強化する道路の整備及び県内の直轄国道の改良などに要する直轄事業負担金
〈H28完了予定箇所〉
・国道26号 第二阪和国道(淡輪ランプ~平井ランプ)
・国道480号 鍋谷峠道路(直轄権限代行)

◇ 都市内道路 12.9億円(16.3億円)

都市部の渋滞解消、交通の円滑化を図る都市計画道路の整備

◇ 生活に不可欠な道路 25.4億円【27補正 15.8億円】(33.9億円)

高速道路ICから60分圏域拡大、生活圏30分圏域の拡大に資する道路の整備

② 次世代に向けたプロジェクトの推進

◆ (仮称)京奈和関空連絡道路の調査 2,000 (-)

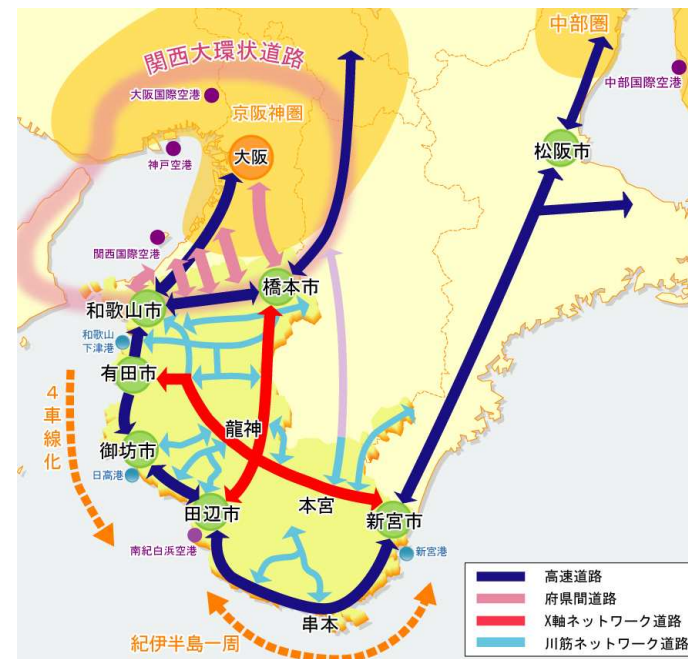
◇ 京奈和自動車道~第二阪和国道までの延伸の早期実現に向けた取組の推進

◆ 南紀白浜空港の活性化 38,181 (-) P61

白浜空港の活性化に向け、施設拡充や運営のあり方について検討を開始

◇ 関空・紀淡・四国高速交通インフラの早期実現に向けた機運醸成

◇ フリーゲージトレイン導入に向けた機運醸成



5. 時代に合った地域をつくる

◆新規 ◇拡充 ◇継続

・金額単位のないものは千円単位

・()内は昨年度当初予算額

まちの再生

既成市街地の再開発等により都市機能を維持するとともに、計画的なまちづくりを促進。

◇都市空間の再構築戦略の推進 305,480 (20,000)

都市計画の見直しの契機となるよう土地利用案の一例を市町に提案するとともに、都市の再生に向けた市町の計画づくりや既成市街地の活性化に向けた再開発事業を支援

◇都市計画道路の整備支援 1,285,000 (1,625,200) 〈再掲〉

渋滞解消や交通の円滑化など、市街地の利便性を向上させる都市計画道路の整備を支援

◆空き家対策の推進 12,342 (-) 〈再掲〉 P62

信頼できる流通制度を活用する場合の空き家の耐震化費用への補助や、県や市町村等を構成員とする空家等対策推進協議会の設置など、物件の状態に応じて流通及び除却を促進

地域の再興

豊かな自然や特色ある産業など地域固有の資源を磨き上げ、活用することで、新たなビジネスや生業のアイデアを創造し、個性豊かで活力ある地域づくりを推進する。

◇南紀熊野ジオパークの推進 42,253 (9,469) P63

「ユネスコ世界ジオパーク」認定に向けた取組をさらに推進し、拠点となるジオパークセンターを整備

◆生物多様性と歌山戦略の推進 32,098 (-) P64

減少しつつある和歌山県の生物多様性を保全するため、里地・里山環境の保全に取り組む団体を支援するなど、「生物多様性と歌山戦略」を推進

◇世界農業遺産の推進 【27補正 6,394】 (2,063) P65

「みなべ・田辺の梅システム」の世界農業遺産認定を地域の活性化に活用

◇サイクリングロードの活用促進

268,675【27補正 7,869】 (479,115) P66

地域の魅力を満喫できる周遊ルートの整備を推進し、全国へ発信するとともに、サイクリングイベントの開催を通して誘客を促進し、地域を活性化

◇歴史・地域資源を活用したまちづくり 21,595 (4,528)

世界遺産の追加登録、ユネスコ世界ジオパーク認定を目指す地域等において、景観条例による規制をかけるための調査を実施するとともに、地域特有の歴史・景観を活かした市町村のまちづくりを支援（各種計画策定支援、施設改修支援）

文化・芸術・スポーツの振興

人生に潤いや感動を与える文化・芸術活動に、誰もが気軽に参加し、親しめる環境整備を進める。また、紀の国わかやま国体・大会で高まった県民のスポーツへの興味関心を薄めることなく、更なる競技力の向上に取り組む。

①文化・芸術

◆国民文化祭開催（平成33年）に向けた取組 3,541 (-) P67

県内文化団体の統括組織を設立して文化団体を育成するとともに、県民意識を醸成するためのイベントを開催

◇偉人顕彰シンポジウム 9,950 (9,950)

パナソニックを創業し、世界的企業へと成長させた経営の神様「松下幸之助」の功績を改めて顕彰するシンポジウムを開催

◇南方熊楠記念館の再整備 440,568 (304,908) P68

本県が生んだ世界的博物学者「南方熊楠」を顕彰する南方熊楠記念館を再整備（平成28年度中完成）

◇世界遺産追加登録 参詣道魅力再発見

16,994【27補正61,169】 (30,008) 〈再掲〉 P28

「世界遺産」の追加登録を契機に、さらなる誘客促進と受入体制の整備を実施

5. 時代に合った地域をつくる

◆新規 ◇拡充 ◇継続

・金額単位のないものは千円単位

・()内は昨年度当初予算額

②スポーツの振興 P69

◇スポーツ好循環の創出 326,862 (680,825)

紀の国わかやま国体等で活躍した競技者を優れた指導者として育成し、次世代のトップアスリートを輩出していく好循環を創出

◇マスターズスポーツ推進 15,235 (14,727)

「関西ワールドマスターズゲームズ2021」等マスターズスポーツの祭典に向けて気運を醸成

◇スポーツキャンプ誘致の推進 6,950 (11,247)

国内外のナショナルチームなどのキャンプ誘致を実施

学校教育の充実

子どもが心豊かにたくましく社会の中で活躍していけるよう、確かな学力の養成や心身の健全な成長に取り組む。

①学力の強化

◇きのくに学力向上総合戦略 31,061 (26,564) P70

子どもの学力のさらなる向上を図るため、教員の指導力を高める取組を推進

◇国際人育成プロジェクト 192,172 (177,808)

生徒の英語コミュニケーション能力向上のため、研修やTOEIC受験による英語科教員の指導力向上や、中学3年生の英検受験による実力把握を実施

◆イノベーションスクール(OECD教育和歌山版)推進 4,662 (-) P71

社会状況が激しく変化する時代に適応するため、国際的な視野を持ち、社会に貢献できる人材を育成

◆高校生チャレンジ推進事業 2,696 (-)

意欲ある高校生が全国レベルのコンテストや大会に挑戦する機会の確保や、優れた取組を商品化・産業界に紹介することにより、地域活性化を担う人材を育成

②児童の健全育成

◇不登校等総合対策 189,275 (175,315)

いじめや不登校の問題について、有識者の意見を取り入れながら、県をあげて重点的に対策を推進

◇道徳教育の徹底

県独自の教科書「心のとびら」や「希望へのかけはし」を活用した道徳教育を徹底し、規範意識、自他の生命の尊重、思いやりなどの道徳心を養成

◇ふるさと教育の推進

県独自の教育副読本「わかやま発見」や「わかやま何でも帳」を活用し、ふるさとへの愛着を高める

◇子どもの体力の向上の推進

県オリジナル「紀州っ子がやきエクササイズ&ダンス」の学校体育授業での活用や体育指導員の指導力強化研修などにより、児童・生徒の体力向上を図る

◆子どもの居場所づくり 22,629 (-) 〈再掲〉P8

帰宅してもひとりで過ごさざるを得ない子どもたちの居場所づくりを推進

南紀白浜空港の活性化

平成28年度：38,181千円
(新規)

南紀白浜空港の活性化に向け、**施設拡充や運営のあり方**について**検討を開始**

国際線誘致に向けた施設拡充

- ・平成28年度から、国際ターミナルビルの基本設計・実施設計に着手
 - »国際線に対応した**ターミナルビルの設計**
 - »空港内の**機能再配置の検討**

コンセッション等の検討

- ・平成28年度から、国際便誘致及び運営効率化のため、コンセッションや民間委託等、運営のあり方を検討



○白浜空港の概要

- ・平成8年 現空港の供用開始
- ・平成12年 滑走路2,000mとして供用開始

○利用状況

- ・白浜－羽田間を定期路線として、3便/日、運航
- ・H27年搭乗率：68.1%
約12.7万人が利用

空き家対策の推進

平成28年度：12,342千円
(新規)

防災・衛生・景観等、地域住民の生活に影響を及ぼす空き家対策を推進するため、物件の状態に応じた対策を推進

平成28年度からの新たな取組



利活用可能な空き家

流通の促進

信頼できる流通制度の活用促進

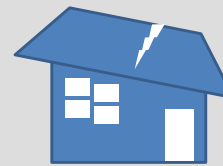
- ① 下記団体を通じて空き家を流通させる際、**耐震化費用の一部を補助**

対象 ・定住支援住宅管理機構（県住宅供給公社）
【わかやま空き家バンク】
・（一社）移住・住みかえ支援機構
【マイホーム借り上げ制度】

- ② 「わかやま空き家バンク」登録物件について、所有者又は移住者の依頼に基づき、**物件の状態を県が評価**（シロアリや雨漏りなど）

住宅診断制度の普及・啓発

住宅診断制度（専門家が補修すべき箇所などを診断する制度）の普及・啓発等に取り組む団体を支援



再利用が見込めない空き家

除却の促進

空家等対策推進協議会（仮称）の設立

廃墟となった空き家の除却など、空き家対策に取り組む協議会を県が主体となって設立

構成員 県、市町村、学識経験者、弁護士 等

スキーム ① 県・市町村が、対策を必要とする**事案を提案**

↓
② 規制手法や助成制度など**解決策を検討**

↓
・空家等対策特別措置法、建築基準法、
景観支障防止条例等による除却促進手法
・除却後の跡地利用の促進 など

③ 市町村が解決に取り組む場合、**県は技術面で協力**

南紀熊野ジオパークの推進

平成28年度：42,253千円
(9,469千円)

「ユネスコ世界ジオパーク」認定に向けた取組をさらに推進し、 拠点となるジオパークセンターを整備

ジオパーク推進事業の実施 (H25年2月 ジオパーク推進協議会設置)

H26年8月 「日本ジオパーク」に認定

「ユネスコ世界ジオパーク」認定に向けた取組



橋杭岩

南紀熊野ジオパーク

新宮市、白浜町、上富田町、すさみ町、那智勝浦町、太地町、古座川町、北山村、串本町のエリア

調査研究・保全

- ジオサイト及びジオストーリーの調査

普及啓発

- ジオサイト情報ツールの拡充
- 講演会やシンポジウムの開催

教育・学習

- ジオパーク学習の推進
- 地震火山子どもサマースクールの開催

観光振興

- ジオツアーのモデルコースづくり
- ジオパークガイドの育成

南紀熊野ジオパークセンターの整備 <平成30年度未完成予定>

【役割】南紀熊野ジオパークの核となる施設

- ① 来訪者への情報提供
- ② 地域内のジオパークの活動拠点
- ③ 展示や体験コーナー
- ④ 雨天時のジオツアーの代替施設

【機能】

- ① ビジターセンター、ガイダンス・シアター機能
- ② 人材育成機能
- ③ ジオツーリズムの拠点機能

整備予定地

串本町

生物多様性和歌山戦略の推進

平成28年度：32,098千円
(新規)

減少しつつある和歌山県の生物多様性を保全するため、
「生物多様性和歌山戦略」(平成28年4月策定予定)を推進

1. 生物多様性の普及啓発	新 シンポジウムの開催、パンフレット「和歌山の自然」の作成
2. 自然度の高い森林の保護	新 県による公有林化(新紀州御留林) 市町村による公有林化
3. 適切な鳥獣保護管理	管理捕獲の実施や防護ネットの使用等による、シカ等の食害を原因とする森林荒廃の防止
4. 外来生物等への対策	新 生物多様性和歌山戦略推進委員会を設置し、基礎的データの収集・調査 →外来種リスト作成(平成30年度)、レッドデータブック改訂(平成33年度)
5. 里地・里山環境の保全	新 生物多様性の保全につながる地域団体の取組を支援

世界農業遺産の推進

平成27年度補正：6,394千円
(2,063千円)

「みなべ・田辺の梅システム」の世界農業遺産認定を地域の活性化に活用

① 「梅」を国内外に広める

「梅」の優れた機能性を国内外に発信し、梅産業を活性化

- 百貨店、国際見本市、海外和歌山フェアでのPR
- 国内認定地域で連携して行うPRや販売促進イベント等への出展



● 優れた景観

② 観光振興に活用する

世界遺産や南紀熊野ジオパーク等の観光資源と繋いだ観光の周遊化

- 梅にまつわる地域の魅力を盛りこんだツアーの開発、プロモーションの実施



● 薪炭林の水源涵養
防災機能

③ 後継者を育てる

梅の伝統技法、伝統文化を伝承するため、次代を担う人材を育成



● 発展した梅加工技術

サイクリングロードの活用促進

平成28年度 : 268,675千円
平成27年度補正 : 7,869千円
(479,115千円)

地域の魅力を満喫できる周遊ルートの整備を推進し、全国へ発信するとともに、サイクリングイベントの開催を通して誘客を促進し、地域を活性化

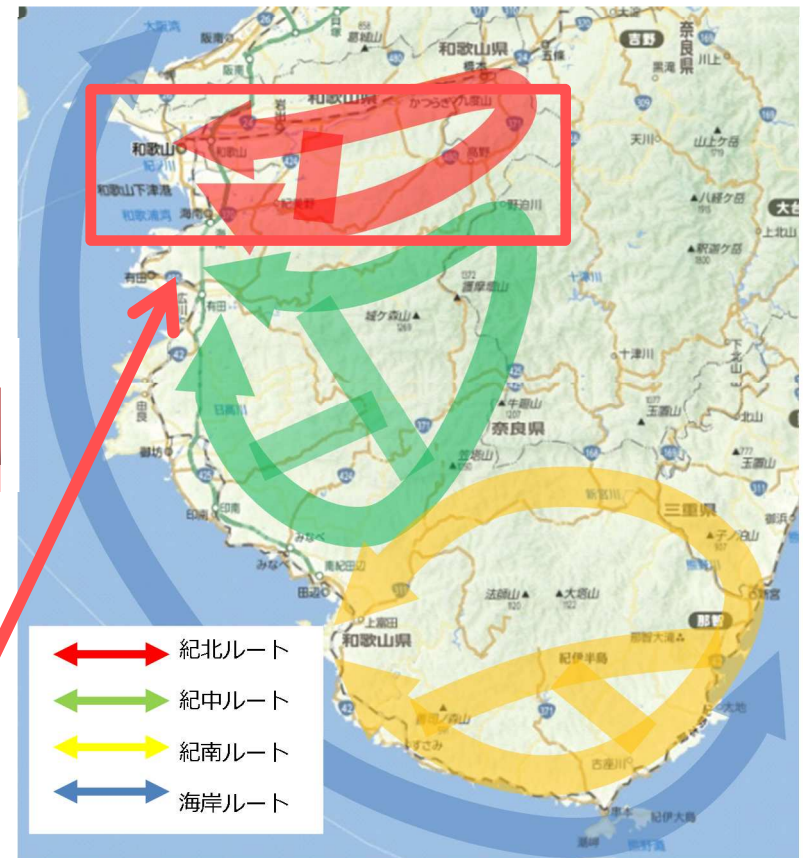
サイクリング周遊ルートの整備と発信

- サイクリングロードの整備 :
ブルーラインや案内看板などの設置、専用道路化を推進
- 周遊ルートのPR :
風光明媚なスポットや観光名所、ヒルクライムルートなど、初心者から上級者まで幅広いニーズに応じられる4つの周遊ルートを提案し、全国へPR
- サイクルステーションの配置 :
バイクラック・空気入れ・修理道具などを常備するサイクルステーションを配置し、周遊ルートの利便性を向上

イベント開催による誘客促進

- 走行ルート : 安全・快適に走行できる紀の川沿線を含む紀北地域(海草・那賀・伊都振興局管内)で設定
- 開催時期 : 平成29年3月
- 魅力発信 : スタート・ゴール地点やエイドステーション(サイクリストの休憩場所)で地元の特産品を提供し、地域の魅力をPR

- スタート兼ゴール
- エイドステーション



国民文化祭開催(平成33年)に向けた取組

平成28年度：3,541千円
(新規)

〔国民文化祭〕

国民の文化活動への参加の気運を高め、新しい芸術文化の創造を促すため、昭和61年度から毎年各都道府県で開催されている文化の祭典



第30回国民文化祭かごしま2015

平成33年の国民文化祭開催を目指した取組をスタート！

平成28年度

- 「わかやま文化芸術協議会（仮称）」設立
 - ・ 国民文化祭の中心メンバーとなる組織
 - ・ 県内文化団体の統括組織
- 「キックオフイベント」開催
 - ・ 平成28年度末開催予定
 - ・ 国民文化祭開催に向け県民意識を醸成
 - ・ シンポジウムと文化団体オンステージ

平成29～32年度

- 【平成29年度】
 - 基本構想策定
- 【平成30～31年度】
 - 実行委員会設立
 - 実施計画策定
- 【平成32年度】
 - 東京五輪文化プログラム
 - 国民文化祭プレイベント

平成33年度

国民文化祭開催

南方熊楠記念館の再整備

平成28年度：440,568千円
(304,908千円)

本県が生んだ世界的博物学者「南方熊楠」
を顕彰する南方熊楠記念館を再整備

◆事業の概要

①新館の建設（平成28年度中完成）

所在：西牟婁郡白浜町（番所山）

機能：文献・標本等の保存展示、調査研究、教育普及

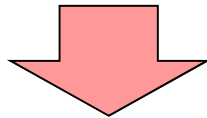
内容：展示室、学習シアター、ライブラリー、収蔵庫等

構造・規模：RC造 地上2階建て 延べ床面積約550㎡

②旧館の耐震化（平成28年度中完了）

現在の記念館を耐震化

特別展や来館者に対する教育講習の場として提供



◆番所山公園の中核施設として
郷土文化への理解の促進

◆青少年への環境学習の場として
全国に南方熊楠を再発信

<新館完成イメージ図>



<記念館の歴史>

昭和37年 南紀行幸の際、昭和天皇が南方熊楠を偲んで
詠歌されたのを契機に記念館建設の運動開始
「雨にけふる神島を見て 紀伊の国の生みし 南方熊楠を思ふ」

昭和40年 開館

平成12年 入館者100万人達成

平成19年 南方熊楠生誕140周年記念特別展開催

スポーツの振興

平成28年度：349,047千円
(706,799千円)

紀の国わかやま国体終了後の競技力の維持・向上とスポーツ機運の醸成

スポーツ好循環の創出

目標 2016岩手国体における男女総合順位 10位台

- **ジュニア選手の強化**：ゴールデンキッズの発掘、強豪チームとの練習会開催
- **成年選手の強化**：企業チームやクラブチームの活動を支援
- **優れた指導者養成**：トップ強化コーチ招へいや強化拠点へのコーチ派遣
- **スポーツ医・科学サポート充実**：データ分析による指導や大会等へのトレーナー・ドクター派遣

スポーツの定着

目標 海外ナショナルチーム等のキャンプを5年間で5チーム誘致

- **スポーツキャンプ誘致**：国内外のナショナルチームなどのキャンプ誘致を実施
(誘致実績：オーストラリア陸上チーム、カナダ競泳チーム)
- **マスターズスポーツ推進**：関西ワールドマスターズゲームズ2021などの大会に向け、県内各地でマスターズの大会を開催

きのくに学力向上総合戦略

平成28年度：31,061千円
(26,564千円)

子どもの学力のさらなる向上を
図るため、教員の指導力を高める
取組を推進

【目標】 学力が全国平均を上回る

平成27年度全国学力・学習状況調査 平均正答率 (%)

小6	県(全国)/順位(前年度)	中3	県(全国)/順位(前年度)
国語A	69.5 (70.0) /31 (47)	国語A	73.4 (75.8) /44 (44)
国語B	64.5 (65.4) /31 (42)	国語B	62.9 (65.8) /45 (45)
算数A	75.6 (75.2) /16 (42)	数学A	64.0 (64.4) /25 (37)
算数B	44.9 (45.0) /21 (44)	数学B	39.6 (41.6) /37 (41)
理科	59.0 (60.8) /43 (-)	理科	50.1 (53.0) /44 (-)

＜既存の重点的な取組＞

- ①きのくに学力定着フォローアップ
 - ・退職教員を学校に派遣し、授業改善アドバイス等実施により教員の指導力向上
- ②教員のスキルアップ研修
 - ・学校マネジメントや授業改善等の研修
- ③補充学習の充実・強化
- ④県学習到達度調査
- ⑤読書好きの子どもの育成
 - ・「司書おすすめの本」リストを活用

＜新たな取組＞

- ①若手教員の授業力向上
 - ・優れた実践力を持つ教員の指導法を取り入れた指導用マニュアル作成と活用の徹底
- ②管理職の学校経営力向上
 - ・学力トップクラスの福井県に教員を長期派遣
 - ・派遣した教員が研修成果を還元
- ③きのくに教員育成協議会の新設
 - ・教員が段階に応じて身につけるべき能力を示した教員育成指標の設定やその達成のための計画策定

イノベーションスクール(OECD教育和歌山版)推進

平成28年度：4,662千円
(新規)

国際的な視野を持ち、社会に貢献できる人材を育成

社会状況が激しく変化する時代に適応するためには、知識・技能を備えるだけでなく、それらを活用して**他者と協働・調和する能力**が必要

その能力を養成するのがイノベーションスクール

『イノベーションスクール(OECD教育和歌山版)』実践校を指定

日高高校・那賀高校・海南高校・田辺高校

28年度

生徒の自主性・協調性を磨く授業を実践

1. 学校と地域を結ぶ学び合い

フィールドワークによる地域の課題研究・発表
(例：熊野古道の環境保全、沿岸部の津波対策等)

2. 学校と世界を結ぶ学び合い

県内外および海外の生徒と共通のテーマで会議
(ICT機器を使ったオンライン会議や現地訪問)

29年度～

全ての普通科高校等で実践

- 普通科高校等の職員が実践校の授業内容を視察
- 各学校で「実践年間指導計画」を作成 → 県教委で視察・指導